

C+ 21 番テーブル 総評 青山学院大学 4 年 森山佳奈

解釈の違いなどあったら申し訳ありません。テーブルを見た、一個人の意見として、参考程度に見ていただければ幸いです。



▼ テーブルメンバーの順位

1. 鈴木（法市2）
2. 石田（武蔵2）
3. 高橋慎（明学2）
4. 橋本（早稲田2）
5. 石橋（早稲田2）
6. 加勢（獨協2）
7. 市川（成蹊3）

▼ 議論の流れ

市川のアローイングから始まり、市川、鈴木の名が OP に立候補した。両候補者の def やコンパリに対するいくつかの Q ののち、鈴木が OP に選ばれる。

TG に対する Q ののち、ごちゃりもなく ASQ を終える。NFC では橋本、石橋から 2 つアーギュが出る。SOL では橋本、加勢、石橋から 3 つアーギュが出たが、それぞれ適切な流しがされ、GETAD された。DA は石田の出す B/D/F になった。

コンパリでは、鈴木の出す TG コンパリに Q や doubt が出されるところで終了となった。

NFC

橋本のアーギュ

EVI を使い、23.8%の J/N が今回の B/D に O/T を force することに反対しているから× M/S/B である。だから×Touch だという Idea だった。石田によるコアの引き出しにより Deprive Right という点を問題点としているとされた。そのうえ、鈴木による Q で M/S/W だとなぜ×Touch なのかという流れになった。高橋のチョイスである、“DepriveRight>S/M”というものが選ばれたことで、高橋によりコンパリで話すことが決定した。

予め、M/S/B と Touch のリンケージは詰めておきましょう！

流す側はいろんなチョイスをたくさん持っておくと相手は逃げられないし誰にも奪われません。逆に今回の高橋君のように人の Q にチョイスを足すときは口頭だけじゃなくて自分で新しくチャートを書いておくと思われたときに自分の話に持ってきてやすくなると思います。

石橋のアーギュ

SQ では、B/D や B/D/F は現状 O/T を受け入れているので、Dr にとって、（患者、家族の意思の尊重ができるから）Best な状況なので×Touch というアイデア。市川による誰にとって？という Q で Dr にとってだと明らかになる。鈴木により、今回の TG である Patient がマイナスをもっており、Dr は DiffrentTG であるのでコンパリで決めようと S を出す。それに対し、石橋は NFC でコンパリすることを S として出した。高橋により、そのリーズニングを引き出す Q がなされたが、明確なアンサーがなかった。鈴木や石田に、コンパリでの要素（TG,S/M のコンテンツ）などを提示され、石橋は先ほどの鈴木 of S に乗ることになった。

OBJ する人はなぜ今やるのかのリーズニングを大切にしよう。事前に考えておくと本番でもやりやすいので先輩に見てもらったりしよう。逆に流す側の方は、①なぜいまできないのか②どこでやるのか③どうやって具体的にやるのか 3点を意識しよう！（そのエリアでやったらどんなメリットがあるのかとかも言ってもありかも）

でも、相手がどれだけタスク理解をしてるのかに合わせてその説明の仕方、長さは変えてもいいと思います。

プラクティカビリティー

橋本のアーギュ

議会の法律を決める際には 2/3 の賛成が必要である。しかし、54.4%が反対している現状である (EVI) によって、SOL が立たないというアイデア。

石田により、2/3 の賛成とは議員のものであると明らかに。鈴木により、どんな点においてプラカがないのかという Q、更に石田の J/G の定義確認によって、最終的に石田が S でコンパリで話すことに決めた。

データやワラントでは、主語、述語を大切にしましょう。誰が？という部分が抜けていては話せません。54%の誰がが何に反対しているのか？今回のプランのみなのか、そもそも現状の臓器移植の制度にも反対しているのか？なども疑ってもよいかも。

石田君市川さんはその辺を少し突っこめててよかったので、そのあとどう流しにつなげるまで提示できれば良かったです。

加勢のアーギュ

B/D は犯罪を犯してもない無実の人である。J/G はそんな無実の人を殺した前例はないので今回の Plan の Placa はないといった Idea。

橋本により、T/POINT として、①本当にすべての B/D は犯罪を犯していないのか否か ②J/G は本当に無実の人を殺した例はないのか (A/E はその例に当たるか否か) を提示した。

しかし、流されてしまい検証には至らなかった。

石田により、SQ,APA どちらも O/T は行われているが UQ は何かという質問がなされ、Agreement があるか否かであることが明らかになった。

高橋により、PLACA と J/G never stop innocent ppl とのリンケージの質問がされた。そこで、“R/J/G>J/G(us)”というセンテンスが選ばれた。高橋により、そのリーズニングを出すことの BOP を振られ、かつ Evidence であることの条件からアンサーができなかった。

「R/J/G と J/G を比べる事はバリューである」という理由からコンパリで話すことになった。

それぞれアプローチが異なり、やりたいことがばらばらで時間がかかってしまった印象です。オブジェする側の人は、リンケージを詰められたら本当にそのチョイスでいいのかどうか慎重に選ぶといいと思います。J/G と R/J/G のコンパリをしたかったのか、前例があるかないかの話をしたかったのかなど、そのかじ取りができるのはおそらく Obj した側だと思うので、慎重にやれば思い通りの方向に進められたのかなと感じました。

石橋のアーギュ

Dr の Task は All Patient の Will を尊重することであるので、Plan では Dr は B/D や B/D/F の意思を尊重できないのが問題である、というアーギュ。

橋本により、SQ で尊重されていた 2 つの Case が Plan により尊重されなくなることが UQ であるとされた。石田により、リーズニングが詰められるとともに、今日の OP が選んだ TG と石橋の TG が違うことから、コンパリソンに落とし込み話すことになる。QL コンパリで話すことになる。

石橋は“TG が違うのになぜ Worka で話すのか”という理由まで話せていたらもっとテーブルに浸透していたと思う。それがなければ、とりあえず出したような印象になってしまう。流す側の人は、そこまでインテを組むか、なさそうな人なら、チョイスを出して選ばせ引き出した風な雰囲気にとオーソリがつくと思いました。

DA

DA は 石田の Idea

TG : B/D/P SIT : die by O/T WILL : ×want to die RSNOFWILL : ×consider

Term の終わりのポイントは鈴木や高橋により、O/T までに絞られた。

DA 選びに時間がかかっていた。コンパリを見越して、タイムネ意識をするとよいと思いました。たしかに Term の EndPoint は議論の余地があったと思います。しかし、鈴木さんのように本当にその話がコンパリでされるのか否かという“その話が必要か?”という視点も大事であったとも思います。高橋くんは、なぜ石田君が S に乗れないのか、などの Reason を引き出したり、S に乗った場合の Merit を提示するなどアプローチを変えたらもっとよいかと！

コンパリ

AD:high poss recover → ○contribute(work)

DA:law poss recover → ×contribute(work)

鈴木のアイデア Criteria: TG それに対し、石田は DA は O/T することで 4 人の命が救える、そのことでお金が J/G に入るので contribute だという反論をする。鈴木はそれは J/G に本当に入るのかという Doubt をしつつ、Obj としてロジックで出させるようにいうことで流れた。

高橋の、contribute についての Q で“economy by work”という定義が出されたところで終了した。

まずこのコンパリが、T/P したら起こる“recover”を比べている。いわゆる SQ と APA を

比べているものになっている。よって石田の反論は（石田自身も途中でしゃべっていて気付いたようなリアクションをしていたが笑）APAをサポートするものであり反論ではない。検証を始めたときに、SQとAPAの変化の話（シリコンちっくなモノ、今回のやつみたいなの）か、APA,ASQで変わらない特徴の話かなどの時間軸を明確にするべき、やらないとかみあわなくなる可能性があります。

あと、contributeをWORKでしぼっていいのか？J/G目線で見たらお金での貢献も、労働での貢献も、経済が活発になることも変わりがないからしぼるなっているObjの仕方もあるとも思いました。これは立ち回りによって意見を変えるとかね、参考までに…

▼順位と選定理由

1位 鈴木（法市2）

OPとして、的確なCにより混乱を避け、GETADした点を評価しました。DAのtermの話などで感じたように、相手のインテを組んだりすることがうまく、他者の話への介入を評価しました。ただ、2位とは僅差でありました。その点は後半の介入量が下がってしまっていたからではないかと思います。3時間コンスタントに介入することが課題だと思います。しかし、鈴木さんの質の高いC、その視点が武器になると思います。テーブルを引っ張る実力はあると思うので、介入量をもっと！アッセンにも期待！春セミ、お疲れさまでした。

2位 石田（武蔵2）

1位とは非常に僅差です。スピードが速く介入すること、質の高いQやリーズニングなどでSを通していたことを評価し、さらにDAにも選ばれていたことで選定しました。欲を言うと、周りの人に対するプレゼンをする（ホスピタリティで周りに自分の意見を聞かせる）こと、奪われそうになってもあきらめないでSを通すことを意識すると順位は変わったのではないかと感じます。頭の回転早いと思うからアウトプットの仕方を変えればもっといい順位になると思います！アッセン、がんばってってください！

3位 高橋（明学2）

加勢に対するアーギュ、橋本に対するアーギュを流していた点を評価しました。今回のテーブルは何個もアーギュが出て、鈴木、石田も同じようにSを通したりAD,DAプレゼンターのためにこの順位になりました。自ら立論することがなかったためにこのようなテーブルでは自分の役を見つけることが必要だったと感じます。ただ、自分一人でQ,CをしてSを通すことができている、Sの精度は高いと感じました。

細かい S の発想力とかチョイスの出し方がうまいと思いました。より、周りを味方につけるようなプレゼンや、もっと介入ができればもっと上に行けると思います。頑張ってください！

4～7位は僅差です。

4位 橋本（早稲田2）

石橋とは非常に僅差です。アーギュと、さらに加勢に対する論点を提示していたことを評価しました。あまりテーブルにがつついてる感じではなかったけれど論点自体はとてもよかったです。アーギュをもう少しつめて、意図を明らかにしているともっと良いと思います。これからもっとテーブルを組むと思うんですが、橋本君の視点は面白いと思うのでぜひもっと発言していったほしいなと感じました。その視点を生かして他者のアーギュに介入して自分だけで先を見通して、流せるようになるといいと思います。アッセンでも頑張ってください。

5位 石橋（早稲田2）

アーギュを通し、自分の意見を提示したことを評価しました。
“どこまではどこではなしたい”など、提示出来ていてよいと思った。「いまコンパリしよう」という S なら大きなリーズニングが必要だからこれからもう少し詰めていってもいいなと思いました。テーブルに嫌われないような話し方をしつつアーギュをできているのでそれを生かしつつこれからも頑張ってください。あと、他者への介入を Q でもいいからしてみたら順位がもう少し上になると思います。

6位 加勢（獨協2）

自分のアーギュと数回の Q にとどまってしまったためにこの順位になった。今回のテーブルでは、役がかぶってしまったので自分の役割を見つける事が必要だったと感じます。前回見たとき、かなり質の高い Q（流しに直接つながるような）をしたり、C や Q でごちゃり回避をしていたので、惜しいなと思いました。今回だと何個か Q や C をしたり、流そうとしていれば順位はかなり変わったので… ある程度テーブルを引っ張っていけるような実力があると思うので、期待してます。

7位 市川（成蹊3）

OP 決めの時以降、介入量が減ってしまったためにこの順位となった。しかし、4～7位は非常に僅差だったために Q を何個かしていれば順位は変わったと思います。
3時間の中で、入りにくい空気ができちゃったとしてもあきらめずに介入すればいつでも逆転はできると思います。自信をもって、プレゼンできればみんな聞いてくれると思うので！

アッセンでは最高学年として（オーソリをつかいつつ）テーブルを引っ張って行ってください。まだ数か月あるので、プレパすれば結果はついてくると思います。頑張ってください。

長い文章なのに、読んでくれてありがとうございます(笑)
偉そうにすみません。

とにかくお疲れ様でした。いろんな思いを抱えた C+テーブルだったと思います。
後悔の無いように、アッセンに向けて頑張ってください。
2年生はまだまだこれからいくらでもうまくなっていきます。
3年生もまだ、アッセンが残っています。

質問があれば、あとは、なにか私に力になれる事があれば、
だれでも連絡ください。笑

AGU（4）もりかな a14114323@gmail.com